

令和7年 上富良野町議会第3回定例会

一般質問 質問事項一覧

届出順	氏 名	質 問 事 項
1	3番 湯 川 千悦子	1 熱中症による事故防止のため、エアコン設置費用の補助を行う考えはないか 2 止まらない物価高騰対策としてプレミアム商品券の発行を行う考えはないか
2	10番 井 村 悦 丈	1 今後の熱中症による健康被害予防対策について 2 郷土芸能の保存継承について
3	8番 中 瀬 実	1 ヒグマ対策について
4	5番 金 子 益 三	1 これからの富良野広域連合への考え方は 2 年末年始の繁忙期に対応できるプレミアム商品券事業は行わないか
5	1番 佐 藤 大 輔	1 花火大会について 2 ラベンダーフェスタにおける交通渋滞について
6	6番 林 敬 永	1 外国人による日本での土地取得に対する町の対応について 2 消防本部移転計画の再考と住民安全確保について
7	2番 荒 生 博 一	1 ラベンダーフェスタかみふらの2025の運営について 2 町民に届く地域イベント等の広報について
8	7番 茶 谷 朋 弘	1 町の移住定住支援策について
9	4番 米 澤 義 英	1 ミサイルの配備計画について 2 こども誰でも通園制度について 3 緊急通報システム事業について 4 白銀荘における非常用電源の確保について 5 人口減少対策について 6 上富良野高校の維持存続について

一般質問通告書(令和7年9月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
1 3番 湯川 千悦子 1 熱中症による事故防止のため、エアコン設置費用の補助を行う考えはないか (町 長)	近年、日本の夏は記録的な暑さに見舞われており、その主な要因は気候変動であると考えられている。ウェザーニュースの分析によると、1990年以降、暑さを感じる期間が年々長くなる傾向にあり、特に6月、9月、10月の「蒸し暑い」日が増加しており、夏のピークである8月は「厳しい暑さ」が増加している。又、猛暑日(35℃以上の日最高気温)は年々増加しており、2024年には猛暑日の地点数が1万か所を超え、各地で過去最多記録を更新し、北海道も近年例外ではなくなってきており、夜間の最低気温が25℃以上の熱帯夜の増加傾向もみられる。このことは、熱中症のリスクを大幅に高めている。 近年の異常な暑さは、気候変動の影響を強く受けているとされており、気候変動によってこのような気候状況が発生する可能性が少なくとも5倍高まったという分析もある。 これらの状況から、日本の夏は年々厳しさを増しており、熱中症対策などの健康管理が、より重要になっている。 我が町上富良野町の10年前の2015年8月と比較しても、平均気温が約2℃も上昇しているとのデーターが出ていたり、今年の7月には35℃を超える猛暑日が数日あったりと、今までは熱中症リスクは高くは無かったが、近年は特に高齢者の熱中症が増えてきている。また、今後、益々気温の上昇が考えられるため、個人住宅のエアコン設置に対しての町からの補助金は考えないのか、町長の考えを伺う。 (1) 高齢者世帯や、自身では体温調節が難しい乳幼児がいる世帯に対して、エアコン設置費用に対する補助を行う考えはないのか伺う。 (2) その他の世帯において、我が町が宣言しているゼロカーボンシティの面からも省エネ家電の買い替え時に、上富良野町独自の補助金を出す考えはないのか伺う。
2 止まらない物価高騰対策としてプレミアム商品券の発行を行う考えはないか (町 長)	6月定例会でも質問させていただいた、物価高騰に対しての町の対策は進んでいるのか。物価高騰は、毎月のように生活にかかわる食品や物品の値上がりが報道されており、町民の生活は逼迫する一方である。昨年のプレミアム商品券の発行時期の悪さを踏まえ、今年度は早い時期から発行すべきと考えるが、以下の2点について町長の考えを伺う。 (1) 今年度、町民に対しての生活支援はあるのか。 (2) 今年度、プレミアム商品券の発行はあるのか。
2 10番 井村 悦文 1 今後の熱中症による健康被害予防対策について	今年の夏も、太平洋高気圧とチベット高気圧のダブル高気圧や地球温暖化の影響など複数の気象要因が重なり、日本全国例年以上に強烈な暑さが続いた。アメダスによると上富良野町では約30～120日前のおおよそ5月～8月までの平均気温は、約22.7～24.5℃であり、5月の下旬には29℃超えの日が3

(町 長)	日間も続き、6月26日には最高気温32.8℃を記録し、7月は連日猛暑日が続 き、いずれも平年に比べてかなり高い気温傾向が続いた。 国内では、この暑さで多数の熱中症患者が出て、死者も出すほどの危険な猛 暑となり、7月に斜里町では暑さが続いていた中、36.8℃と記録的となった日 に90代の女性が熱中症の疑いで死亡するというような痛ましい事故もあり、 室内にはエアコンが設置されていなかったとのことであった。 町では、気候変動適応法改正による「熱中症特別警戒情報やクーリングシェ ルター」の創設に対応して、熱中症による健康被害の発生を防止するため、広 く町民等に開放する「暑さをしのぐ場」として保健福祉総合センターかみんを 「クーリングシェルター」に指定し、熱中症による健康被害発生の防止策に努 めているところであるが、近年では異常な気温上昇が観測され、特にここ数年 の夏は40℃近くまで達するなど、過去の北海道の夏とは異なる気候になるこ とが今後予想されている。感染症のリスクを考え、在宅で過ごす時間が長い方 もおられる中での住宅や、町民に広く利用される公共施設の空調について2点 伺う。 (1) 住宅改修費補助金事業もあるが、高齢者世帯（非課税世帯）への町独 自のエアコン購入設置補助は行わないのか。 (2) 今後、町の公共施設にエアコンを設置する計画はあるのか。
2 郷土芸能の保存継承に ついて (教育長) (町 長)	町には、古くから地域に根ざした郷土芸能がある。これらの芸能は娯楽とい うよりも地域の歴史や文化を今に伝える貴重な民族芸能であり、世代を超えて 受け継がれることが重要だと考える。東中地区の「東中清流獅子舞」は、地域 に根ざした教育活動として当時の東中中学校へ伝承され、30年余りその活動 を継承し、現在は地域有志が「東中清流獅子舞保存会」を継承し活動を続けて いる。また、昭和48年に結成された「上富良野安政太鼓」は、十勝岳の安政 火口から吹き上がる激しい噴煙をリズムカルに力強く表現している太鼓グル ープであり、いずれも関連団体として、かみふらの十勝岳観光協会が窓口とな っている。 いずれの活動においては、色々と課題を抱えていることが聞かれるところ であり、町の郷土芸能の保存継承に関して、次の3点について伺う。 (1) 町として、郷土芸能の現状をどのように把握されているか伺う。 (2) 担い手や後継者の減少に対して、町としてどのような支援策を講じて きたのか、今後新たにどのような支援、取り組みを検討されるのか伺う。 (3) 郷土芸能の発表の機会をさらに確保するための考えはあるのか伺う。
3 8番 中瀬 実 1 ヒグマ対策について (町 長)	様々な環境の変化なのか人里へのヒグマ出没が増えている。8月、知床連山 の羅臼岳で若い登山者がヒグマに襲われ、命を奪われた。7月に道南福島町で 新聞配達員が市街地でヒグマに襲われ死亡している。全国各地で人間の生活圏 に侵入し、家庭菜園の野菜、生ゴミ、スイカ、メロン等が食い荒らされている。

	9月1日から改正鳥獣保護管理法が施行され、市街地に出没したクマに発砲を市町村長の判断で可能とする緊急銃猟を定めているが、町ではこれらの改正鳥獣保護管理法に対する対応についての考えを伺う。 (1) R6、R7のヒグマの地域別出没件数、捕獲頭数は。 (2) 有害鳥獣対策費R7年は210万9千円と増額になったが、その対策費の中身と取り組み状況は。 (3) 出没対策に向け官民連携の訓練を実施する考えは。 (4) ヒグマ駆除に対する町への苦情はあったか。
4 5番 金子 益三 1 これからの富良野広域連合への考え方は (町 長)	合併ではなくそれぞれの自治体が連携を深め独立性をもって行政運営を行うために、平成21年に発足された富良野圏域5市町村で構成する富良野広域連合の運営が始まり16年が経過した。この間、5年ごとに見直しを図ってきた広域計画も第4次を迎え、令和10年度までの計画が実施されている。 顧みると、平成15年ごろに全国各地でいわゆる「平成の大合併」と呼ばれる市町村合併の協議が盛んに行われ、北海道でも多くの市町村で合併協議会が発足し、ここ富良野圏域においても南富良野町と占冠村で合併協議会が策定されたが、結果はそれぞれの町村が独立独歩で歩む結論に至った。また、同時に富良野圏域5市町村において合併の可能性に向けた話し合いが行われたが、時の首長、議会、住民の総意によって合併は見送られ、その代案として広域連合の道を選び「富良野広域連合」として今日に至っている。 広域連合結成に至るまでの当時の関係機関による大変な努力や英知を結集した結果が、現在の富良野地域発展に寄与してきた事に改めて当時の関係各位に感謝と敬意を払うところである。 そこで、広域連合発足から16年が過ぎた現在、この間圏域も人口減少や、少子高齢化、産業構造の変化等構成市町村においても社会的変化に大きな課題が浮き彫りになってきている。各自治体においてこれらの現状を踏まえてのまちづくりに苦戦している状況である。 そこで、広域連合副連合長としてではなく、上富良野町長として「富良野広域連合」の現状認識と今後の方向性についての考えを、以下6点所信を伺う。 (1) 「富良野広域連合」の現状認識と課題について (2) 現在取り組んでいる事業についての認識と課題について (3) 現在取り組んでいる4事業以外に広域で取り組むべき事業の考えは (4) 消防を初め学校給食等の事業は自賄で行われているが、このことの問題点をどのように捉えているか (5) 富良野広域連合の5市町村のバランスの良い取り組みと将来のあるべき姿についての考え方は (6) 富良野圏域5市町村での市町村合併についての考えは
2 年末年始の繁忙期に対応できるプレミアム商品	前回行われたプレミアム付き商品券事業は、発行時期や、発行枚数、プレミアム率など様々な問題が反省される。物価高騰が止まらない現在、地方におい

券事業は行わないか (町 長)	では物価高騰に給与の上昇が追い付かないことや、中小零細企業では最低賃金の上昇に対する価格転嫁もできず、労働力不足と人件費高騰に苦しんでいる。そこで今年度は改めて早い時期での商品券の発行が求められている。 少規模事業者への手当とは別に、住民のためにより付加価値のついたプレミアム率を確保した商品券事業が早期に行えるような予算措置を行わないか。
5 1番 佐藤 大輔 1 花火大会について (町 長)	現在、我が町では、ラベンダーフェスタと北の大文字、それぞれのイベントに花を添える形で、短時間ではあるが花火が打ち上げられている。 元来花火は日本の夏を象徴する文化的存在であると同時に、祈りや鎮魂の象徴としての意義もあることから、夏の一大イベントとして、花火大会と称するに相応しい規模の花火打ち上げを望む町民の声が多く聞かれる。 ラベンダーフェスタにおける花火打ち上げについては、日の出公園周辺の混雑が予想されるため、あえて小規模なものに留めていると聞いているが、花火に関する町民の声は町長に届いているのか。届いているのであれば、今後どのように向き合っていくのか。
2 ラベンダーフェスにおける交通渋滞について (町 長)	本年も国内外問わず大勢の方が、ラベンダーフェスタの幻想的な空間に酔いしれたと各メディアで取り上げられていた。来訪者数も順調な伸びを見せ、10日間で延べ55,000人もの方が日の出公園を訪れたと聞いている。 その一方で、道道吹上上富良野線から日の出公園へ向かう交差点で車両が混雑し、特に西側へ長蛇の列をなしている光景を目にした。渋滞の影響で駐車場に入ることすら叶わず、遠く車窓からライトアップを眺めて帰路についた来訪者も多くおられたと思うが、イベント満足度の低下により、次回の集客に悪影響を及ぼすおそれがある。 本町が『観光のまち』を標榜する以上、最繁忙期や大規模イベント時に、一定の交通混雑が生じることは、ある程度甘受せざるを得ない面もある。しかしながら、町民の日常生活に支障を及ぼす過度の渋滞は看過できない問題であり、観光振興と住民の安心安全を両立する観点から、不断の対策を講じていく必要があると考えるが、町長の見解を伺う。
6 6番 林 敬永 1 外国人による日本での土地取得に対する町の対応について (町 長)	近年、外国人による日本での土地取得に対する「自治体」の対応については、ここ数年で全国的に注目が集まっており、特に安全保障や水資源の保全といった観点から各自治体が対応を進めている。 北海道内においても、外国人名義による森林伐採や無許可開発が行われ、北海道が開発停止の勧告や建築確認申請の再提出を求めるなど異例の措置が行われている現状にある。 当町においても、外国人による土地取得が聞かれるが、外国人・外国資本による土地取得は、町民において生活するうえでの不安等もあることから、情報公開と自治体としての明確な方針が求められていると考えるため、以下の点について町長の考えを伺う。 (1) 一般的に用地の売買が進められた場合、地域に与える経済的影響(雇用創出か、地元企業の圧迫か)について町長はどのように分析されているのか伺う。

	(2) 町内の土地が売買されることにより、地域の文化、風土、景観に影響を及ぼす可能性があると考え、町としてこれからどのように対応していくのかを伺う。
2 消防本部移転計画の再考と住民安全確保について (町 長)	先の報道にありました富良野広域連合における消防本部機能を富良野市へ移転する計画について、私としては寝耳に水のことであり、このことは上富良野町の地理的特性と住民の安全・安心に重大な影響を及ぼすものであり、看過することの出来ない重要なことだと考える。本町住民の生命・財産を守る上で不可欠な消防サービスの質の維持、特に初期消火や救急搬送における対応時間の確保は最重要課題である。ついては、この移転計画について上富良野町にもたらす影響と、本町の消防体制の維持・強化について、町長の考えを伺い、計画の再考を強く求め、以下の点について伺う。 (1) 消防本部機能が上富良野町に置かれている理由は、どのような理由からと町長は理解しているのか伺う。 (2) 今後どのようなタイムスケジュールで消防本部機能が富良野市へ移転されるのか、計画の具体的な内容と、その決定に至る経緯について伺う。また、上富良野消防署への影響についての町長の認識を伺う。 (3) この度の消防本部移転計画に関して、上富良野消防署への影響等を町民へ説明する考えについて伺う。 (4) 消防本部が移転しても、消防署の機能は維持されとのことだが、現状の配置人員や装備で、住民の期待する消防サービスを継続的に提供できるとお考えか。町として、消防隊員や救急隊員の増員、または車両・資機材の増強など、本町単独、あるいは広域連合内での具体的な消防体制の維持・強化策を上富良野町長として広域連合へ働きをかける考えはあるのか伺う。
7 2番 荒生 博一 1 ラベンダーフェスタかみふらのの2025の運営について (町 長)	今年も7月12日(土)～21日(月)までの10日間、日の出公園ラベンダー園において19:30～21:30の間ライトアップが行われ、期間中初日の12日(土)は点灯式やミニ花火大会、そして19日(土)はメインイベントと位置付け10:00～21:00の間、日の出公園常設ステージにてステージイベントが開催され、広場では飲食店の出店や各社団体展示等が行われ多くの人で賑わった。観光協会の集計によると期間中の10日間の来場者は、55,636人とのことであり、町内はもとより国内外から多くの人々が訪れた。 ライトアップイベントを開始し5年目となり、今や成熟したイベントとなったラベンダーフェスタかみふらののは、今後も継続してイベント運営を行っていくためには様々な課題があると考え。そこで以下4点について町長に伺う。 (1) 昨年の実績で、ライトアップ初日のセレモニーの入場者が多いと知りながら、本年も何故同じように交通渋滞の繰り返しを招くような事態が生じたことに対する町長の見解を伺う。 (2) ラベンダーフェスタかみふらののは、今や町の最大のイベントとなって

	いるにもかかわらず、マンパワーの不足が顕著に表れている。町の職員も期間中交代で町を訪れる方々に対してのおもてなしとして積極的に手伝うべきと考えるが町長の見解は。 (3) 昨年の9月定例会で私は町長に是非町民のために花火打上げをとお願いしたが、別日や別会場で行うなどの検討がなされず祭りが終わってしまった。昨年の町長の答弁はその場限りの言葉だったのか伺う。 (4) 今後もこのままのクオリティーでラベンダーフェスタかみふらのを行っていくためには、物価高でライトアップ機材のレンタル料やオペレーションに伴う人件費、交通誘導に必要な警備員などの必要な経費が高騰している今、今後においても持続可能なイベントにしていけるためには、有料イベントとしての継続も視野に検討が必要であると考えますが町長の見解は。
2 町民に届く地域イベント等の広報について (町 長)	町ではこれまでの間、町民への情報提供の手法としては、町広報誌や防災無線、ポスターの掲示、町のホームページなどを活用し、町民に対し様々な情報提供を行ってきた。このようにデジタル媒体やマスメディア媒体、直接手段を用いて情報発信しても、伝えたいと思っている相手に関心がなければ情報は伝わらない。情報が伝わりにくくなる理由は、情報の内容そのものの不確かさ、多忙な状況や相手への配慮不足などが考えられる。1度きりではなく継続的に発信を続けるなど、ツールや環境を整備し広報の改善を図る必要があると考える。そこで直近開催されたイベントや、今後開催されるイベント等における改善点等を検証すべく、次の4点について町長の考えを伺う。 (1) 過日8月23日(土)午前10時から保健福祉総合センターかみんで開催された第1回「泥流地帯」全国高校生朗読甲子園については、2日前の防災無線の行政だよりで周知していたが、大会当日の観客席は人もまばらで大会出場者は残念な思いをされていたであろうと推察する。全国大会ならば、もっと積極的にPRを行うべきだったと考えるが町長はどのようにお考えか伺う。 (2) 9月27日(土)、28日(日)の2日間 第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会が開催されるが、9月3日現在、町を見渡しても歓迎などの文字も見当たらず、ジオパークを多くの方々に知っていただくために開催される全国大会なのにもかかわらず、町民には何も伝わっていない。ボトムアップで町民の機運醸成を図ることを目的としていたが、あまりにもPR不足ではないかと考えるが、町長はどのように受け止め全国大会に参加するお考えか伺う。 (3) 令和7年度中に実施するとされている「道の駅見学ツアー」についての予算が上程されてから半年が過ぎたが、計画そのものが進んでいないように思えるが、今後どのように進めていく考えか現状について伺う。 (4) 上富良野産の酒米「きたしずく」100%の純米吟醸酒「泥流地帯」の販売が昨年より行われており、今年の春には十勝岳ラベルのプレスリリー

	スがなされるなど販売は順調であると察するが、町民により浸透し活用していただくためにも住民周知等の充実が求められるところであり、今後の地酒づくりをどう推進していくのか伺う。
8 7番 茶谷 朋弘 1 町の移住定住支援策に関して (町 長)	人口減少が進み上富良野町では 2023 年に人口一万人を下回ってからも減少は進み 8 月末の時点で 9,532 人となっている。これまで、一般質問を含め様々な場で移住・定住に関する質問が同僚議員や先輩議員たちによってされてきた。これは、移住・定住により人口を一人でも多く増やすことや減らさないことが町の発展、存続にとってとても重要であるということであると共に、町の移住定住支援施策に対して課題を感じている町民が多いと捉えられるのではないかと。 現在、町は移住支援施策として地域おこし協力隊の活用を中心に、移住支援サイト「カミフライフ」や SNS の運用及び情報発信、移住相談会などのイベントへの参加、空き家空き地バンク、シーズンステイ住宅、体験型イベントなど様々な方法で移住・定住促進を図っている。 また、これまで行われてきた自衛隊員数の維持や増員に関わる陳情・要望活動も上富良野における大事な移住・定住施策の一つであると考えられる。 町はこれまで基本的に町の移住政策に対する考え方は町民にとって住みやすいまちづくり・魅力のあるまちづくりが最大の移住政策であると考え、移住者に限定した支援は検討をするのみであり行ってこなかった。私も町のその考えを十二分に理解し、誰もが魅力を感じるまちづくりをしていくことが最優先だと考えるが、一方で人口減少の加速を見ても日々町民と交流する中で肌感覚でも、先程述べさせていただいた移住・定住に関する施策に十分な効果が出ているか疑問を感じる部分もある。 私自身も移住者であり、町民や移住を検討している方たちから聞いた生の声や私自身の経験を踏まえて、移住・定住支援の今後のあり方に関して以下 4 点について町長に伺う。 (1) 移住促進を進めていく中、近隣の他町村と比較しても十分な効果が出ているか疑問が残るが、近隣市町村との比較を踏まえた上での成果に対する町長の考えは。また、今後新たな上富良野町独自の移住定住支援策は検討しているのか。 (2) 自衛隊員を含め仕事で町内に勤務されている方が町外に住居を構えるといった話を近頃よく耳にするが、町外への流出を防ぎ定住を図るための施策はないか。 (3) 移住・定住を検討した際に重要な要素である住居に関して、町では空き家・空き地バンクでの情報提供、シーズンステイ住宅、リフォームに関する補助金等の施策を行っているがどれをとっても移住を検討する方にとっては物足りない感じもあるが町長の考えは。

	また、以前移住者用住宅として活用され私自身も住んでいた旧教員住宅を含め、町が所有している遊休施設を移住定住の支援策とし活用することをこれまで多くの議員が提案してきたが、その後検討されてきた町の方針考え方は。 (4) 決算時の成果報告書に記載されている移住・定住促進の成果指標の一つにもなりうる移住実績の実数のカウント方法にいつも疑問を感じている。今後の移住定住促進をより効果的なものにするためにも別のカウント方法を検討したほうがいいのではないかと感じるがその考えは。
9 4番 米澤 義英 1 ミサイルの配備計画について (町 長)	防衛省は8月29日、敵の射程外から攻撃する国産の長射程ミサイルの配備計画を発表した。今年度中に熊本市の健軍駐屯地に「12式地对艦誘導弾」の能力向上型を配備するのを皮切りに、全国6道県に配備を開始するとし、26年度に上富良野駐屯地に滑空弾を運用する部隊を新編・配備するとされている。 しかし、これは、2022年に閣議決定された「安保3文書」に基づき、有事を想定した基地攻撃能力配備の具体化であり容認できるものではない。 この報道に対して町民からは、他国との緊張を増すことはやめてほしい、何か事が起きたときに攻撃の対象になりかねないなどの不安の声がある。町はミサイル配備の中止を求めるべきである。危険な動きを止めるためには対話と外交努力が必要と考える。次の点について町長の見解を求める。 (1) 町長はミサイル配備計画に理解を示したとの新聞報道があるが見解について。 (2) ミサイルの配備計画に伴い部隊の再編とミサイルを格納する弾薬庫の拡充があると考えているが。 (3) 町民はミサイル配備計画に不安を感じている。駐屯地の周囲には病院、学校、住宅などがあり、安全が脅かされ、ジュネーブ条約の軍民分離に反すると考える。町や関係機関は詳細な配備計画について地域住民への説明を行い、配備そのものを中止することを求めるべきでは。
2 こども誰でも通園制度について (町 長)	こども誰でも通園制度は、「全てのこどもたちの育ちを応援し、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルに関わらない形での支援を強化する」ため、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園事業として創設された。今年度は全国の一部の保育所等で試行的に実施され、来年度から本格的に実施される。利用方法や利用料、補助単価等の概要については示されているが、来年度に新たな公定価格が示されるとされ、町では、こども誰でも通園制度の実施について園と協議中と聞く。また、この事業について懸念や問題が指摘されている。例えば、 1, 利用者は総合システムを使い面接もなく園と契約をする。2, 生後6カ月から3歳未満の乳幼児を受け入れることから、なれない場所での子供の不安。3, 一時保育との類似性や整合性、受け入れる保育所の条件整備。4, 事故が起こった場合の責任や保険などが明らかにされていないなどがある。当町のこ

	ども誰でも通園制度の実施に向けて、現状と課題について伺う。
3 緊急通報システム事業について (町 長)	緊急通報システム事業は、在宅生活を支えるために、高齢者や障害者等の方を対象に緊急時に消防に直接連絡・通報ができ、相談などがあった場合は地域包括支援センターに直接連絡ができる通報装置を設置している。現在の機器は、光回線では利用できないことや携帯電話の普及で固定電話を解約する世帯が増える中で、今後の緊急通報システムの在り方について検討が必要になってきていると考えるが、現状と今後の対応について伺う。
4 白銀荘における非常用電源の確保について (町 長)	近頃では火山噴火、地震、大雨など自然災害が増える傾向にあり、日頃から災害に対する備えが求められている。町においては、1988 年には十勝岳の噴火で一部の地域では避難が求められた。2018 年には胆振東部地震があり、大規模停電が発生し日常の生活にも影響が出た。白銀荘をはじめとする温泉施設でも利用客の安全確保の対応に追われ大変な状況があった。白銀荘などの温泉施設は指定緊急避難場所と指定されている場所でもあり、非常用電源の確保は必要と考えるが対応について伺う。
5 人口減少対策について (町 長)	人口減少で地域の活力や社会基盤の衰退が問題となっている。町においては、人口減少を抑制するために定住移住促進計画に基づき、町内居住者の定住促進と町外居住者の定住化促進を行っている。他の自治体では人口減少を抑制するために若い世代が住居を新築するとき住宅助成を実施し定住移住につなげている町もある。人口減少の抑制は総合的な対策が必要で町も進めているが、住宅助成制度等のより踏み込んだ対策が必要と考える。今後の対応について伺う。
6 上富良野高校の維持存続について (教育長)	人口減少の中で高校に進学する生徒の確保が厳しい状況にある。美瑛高校では入学する生徒が3年続けて20人未満になったことなどから2030年には閉校するとの報道があった。町においても心配される問題である。 町においては上富良野高校の維持存続のために入学する生徒に対し制服購入を始めとする各種の助成策を行い生徒の確保に努めている。次の項目について答弁を求める。 (1) 上富良野高校維持存続の課題と今後の対応について。 (2) 道教育委員会は、高校の間口削減の基準を入学する生徒が2年続けて20人未満となった場合としているが、自治体の実情に応じて見直すべきでは。